

女性林業グループ「めぐ実の森くりはら」への活動支援

宮城県栗原地方振興事務所 林業普及指導員 粕谷 玲子

1 はじめに

毎年千人ずつ人口が減少しており、林業の担い手確保が地域の大きな課題となっている栗原地域において、当事務所では、地域林業の中核的な担い手の確保や将来の後継者育成、地域の活性化を目指し、「林業普及指導事業の柱のひとつ」として、林業グループの活動支援を継続的に行っている。地域で約10年間活動を続けている女性林業グループ「めぐ実の森くりはら」に対し、活動支援を行った結果、地域の活性化に向けた新しい動きにつながった。

2 取組の内容

(1) 「めぐ実の森くりはら」のこれまでの活動

「めぐ実の森くりはら」の構成メンバーは、地元の林家の女性や森林組合の職員など森林・林業に関わりの深い方々で構成され、メンバーの資質の向上、林産物等を活用した地場産品の開発、地域の林業後継者の育成の3点を目的とし、現在16名で活動を続けている。

林業普及指導員（以下「普及員」）は、「めぐ実の森くりはら」のメンバーの希望にあわせたイベントの企画や、体験講習会の講師要請があった際の情報提供を行っており、活動を開始して10年が経過した現在、「地域文化の伝承」や「地域の後継者の育成」を担う団体となってきている。

しかしながら、活動の中で、いくつか問題点があり、そのひとつが、活動へ参加するメンバーが限定され、会員数が減少してきているということである。問題点の解決のためには、メンバー自身がやりたいことを見つけ、活動していくという自主的な活動の強化が必要であり、グループ活動の方向性を再考する必要がある。

「めぐ実の森くりはら」の活動内容は、以下の2つである。

① 資質の向上

平成12～14年度に県が事業主体となり「はつらつ林業女性活動促進事業」を活用し、メンバーの資質向上のため、普及員が草木染等講習会や交流会を企画した。加えて、平成18年度からムラサキシメジ栽培への取り組みを進めている。また、普及員が栽培講習会などの技術支援を行った結果、メンバー7名が平成19年度から栽培を始めた。栽培個数は1人当たり8～12個で、初めての収穫となった今年度は自家消費となったが、将来、地域の特産物として定着していくことが期待される。

② 外部への情報発信

平成15年度以降、普及員がイベント等の出展を積極的に支援してきたため、メンバーが講習会の講師としての活動の機会も増えており、「外部への情報発信」

に重点をおいた活動になっている。

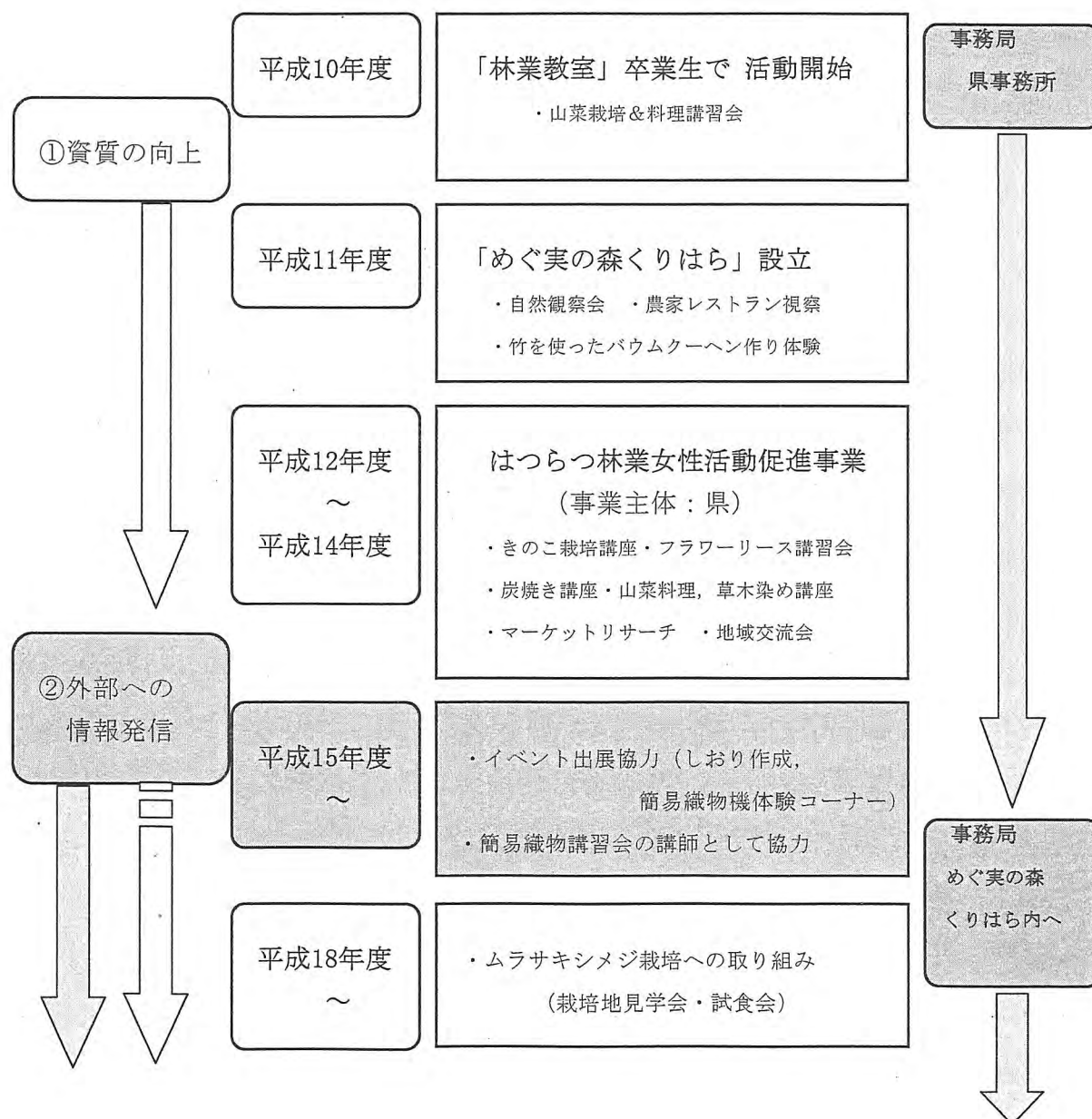
最近では、地元の森林組合や林業研究会が開催するイベント等に体験コーナーへの出展や、簡易織り機を使った織物講習会の講師等を務めている。

また、県事務所主催の「森林作業体験会」では、グループの活動紹介や、地元企業の若者や参加者との交流等を行い、栗原地域の魅力を積極的にPRしている。

活動を開始して10年が経過した現在、グループの活動内容は多岐にわたり、厚みを増しているところである。

さらに、当初、県の事務所内にあった事務局を平成17年度にはメンバーの中に移し、グループ活動が自主的に成り立っていくことを目指し、支援を続けている（表-1）。

表-1 グループのこれまでの活動



(2) 新しい取組へ向けての支援

今後のグループの活動は「外部への情報発信と交流」、「収入を得る」という2つの方向性があり、「外部への情報発信と交流」については、さらに伸ばしていくため、支援を続けていく必要がある。

しかしながら、グループ活動を活発化し、継続したものにするには、「収入を得る」という方向性をもう少し強くすることが必要と考えられる。今回、この「収入を得る」という方向性をグループとともに検討し、「形になるものをつくる」という新しい動きとすることができた。

①「炭アートの展示会」への出展（平成19年10月13～21日：仙台市泉区）

きっかけは、平成19年6月に行った、隣の市にある「大崎森林組合婦人部」と「めぐ実の森くりはら」の交流会である。意見交換の中で、大崎森林組合婦人部では、2ヶ月に1回定例会を開催し、いろいろなものを作っているという話を聞き、メンバーのなかに「めぐ実の森くりはら」でも集まって何か作りたいという気持ちが生まれた。メンバーの一人が個人的につくっていた炭アートや、メンバーが技術を持つ草木染めをグループ活動としてやってはどうか、という意見も出たが、何をするかまとめることができず、これからの活動を模索していた時、仙台地域の県事務所から「炭アートの展示会」への出展依頼があった。そこで、普及員からグループに呼びかけ、今後の活動方針と活動の目標について話し合うことにした。

話し合いの結果、『活動方針についてはまだ、はっきりと決めかねるので、活動の中でこれから決めていこう。まず、「炭アート」をつくって出展しよう。』ということで意見がまとまり、平成19年10月13～21日の「炭アートの展示会」に向けて準備を始めることになった。

まず、炭アートの制作を行うため、炭を焼いた後、夜に制作検討会を開催し、新たに18点の炭アートが完成、すでに商品化していた4点とあわせ22点を展示会に出展することができた。展示会では、来場者の方々から温かいメッセージをいただき、制作したメンバーの励みになった。また、この活動の中で、形になるものを作り上げる喜びを体験してもらうことができた。

②「栗原市産業祭り」への出展（平成19年11月10～11日：栗原市栗駒地区）

炭アートの展示会の終了後、次のステップとして、グループでどのように活動していくか等活動方針について話し合いを行った結果、いろいろな方々に活動を知ってもらうとともに、「形のあるものをつくり、販売収入につなげる。」という活動方針をまとめることができた。

話し合いの際、メンバーの中から、販売を目指すに当たり、どういうものを作ったらお客様に受け入れられるか、お客様の声を聞く機会をもちたいという意見があった。そこで、栗原市主催の産業祭りに出展し、これからのものづくりのため、来場者の意見を収集し、栗原の特徴を活かした製品づくりにつなげることを提案した。具体的には、炭アートのパーツの販売とアンケートを行うことになっ

た。そこで準備のため、再び夜に集まり、ラッピング方法の検討を行った。

こうしてできあがった作品を、平成19年11月10～11日の土日の2日間産業祭りに出展し、7人のメンバーが交代で参加した。アンケートは、2日間で106人の来場者に回答いただくことができた。

アンケートの内容は、展示した22点のうち気に入った作品を3点選んでもらい、その作品の値段はいくらが妥当だと思うかを書いていただいた。また、意見、感想、特に、改善点等の記入をお願いした。

参加したメンバーは、自分の作った作品の感想をお客様から直接聞く機会を持つことができ、「自分の作品を選んでくれる人がいてうれしい」と喜んでおり、様々なアイデアや、励ましの言葉は、メンバーにとって、たいへんうれしく、励みになった。また、アンケートの結果、どういう作品が好まれるかなど、今後のものづくりと販売に向けての取り組みのための貴重な資料を得ることができた。



(アンケート実施の様子)

Made in 鹿野
炭アートアンケート

炭アートをご覧くださいまして
ありがとうございます。
今後の作品づくりのため、参考にしたいと存じますので、
お忙しいところ恐縮ですが、アンケートに御協力をお願いします。

○ 気に入った作品の番号を三つご記入をお願いします。
そして、その作品の値段はいくらが妥当と御考えますか？
値段をご記入をお願いします。

作品番号	作品番号	作品番号
値段	値段	値段

○ そのほかご意見ご感想をお願いします。

「こうした方がいいのと御感じになるところはありましたか？」

※ よろしければ、以下についてもご回答をお願いします。
① お住まいの市町村名をご記入をお願いします。
市・町・村

② 性別 (該当する項目に○をお願いします。)
男・女

③ 年代 (該当する項目に○をお願いします。)
(1) 1～9才 (2) 10代 (3) 20代
(4) 30代 (5) 40代 (6) 50代 (7) 60代以上

御協力ありがとうございました
めぐみの森くまの炭 事務局 香取 422-5
〒922-0101 鹿野市鹿野町1-1-1
TEL 0228-15-3311

以下が、アンケートに寄せられたご意見の一部である。

- ・じゃまにならずに炭の効能を利用するには壁掛けが一番かと・・・
- ・ラッピングがもう少し可愛いと良いです。
- ・こわれやすいので、額に入れる方が良いのでは？
- ・たいへんすばらしくできています。心がいやされますね。
- ・とてもステキな物ばかりです。頑張ってください。
- ・今後もこのような行事を望みます。

アンケートの結果をもとに、今後のものづくりや販売について再び話し合いを行い、その結果、県の事務所の売店で販売を始め、さらに、地元の炭の生産者の炭窯を借りて、生産者からアドバイスをもらいながら、壊れにくく品質の良い作品づくりを目指すことになった。このように、炭アートをきっかけに地域の中で

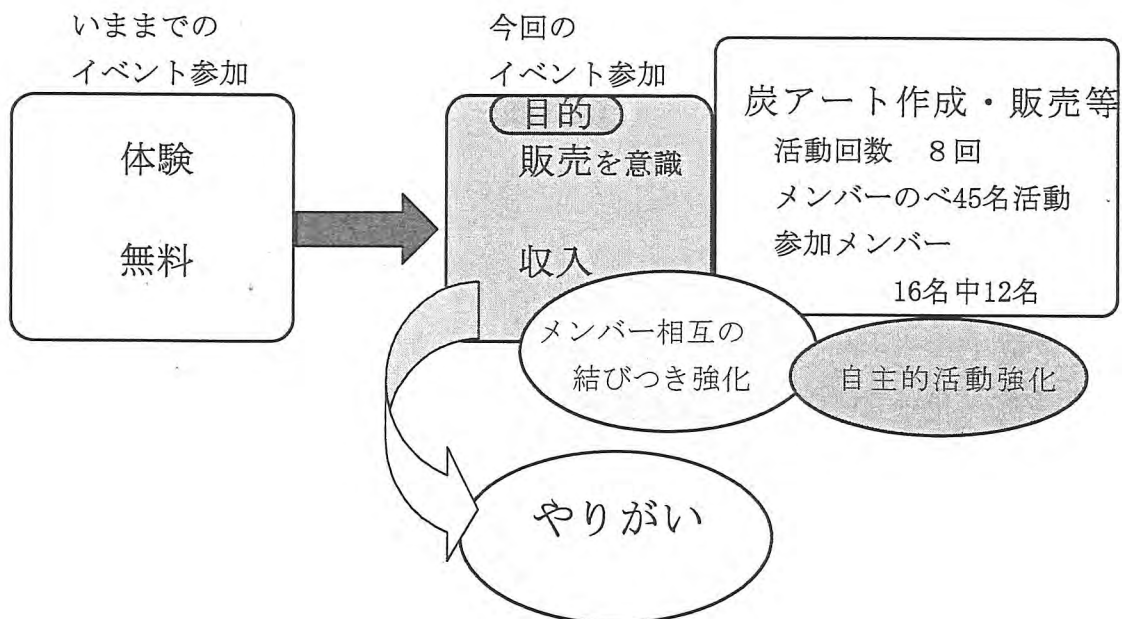
新たな繋がりも生まれている。

3 結果及び考察

今回炭アート制作に係る一連の活動について、普及員は、コーディネーター役として、活動の方向性と目標設定の支援、企画の提案と紹介、活動機会の提供を行った。そして打ち合わせを重ね、活動を行う中で「ものを作る喜び」、「人にみてもらう喜び」をメンバーが感じ、それが自然に、「収入を得るための取り組みへと発展させよう」という目標につなげることができた。

グループの中にも変化が生まれており、「収入を得る」という目的を、メンバー自身が持って産業祭りに参加し、少額ではあるが販売収入を得たことで、「やりがい」につながり、結果として、メンバー相互の結びつきや、自主的な活動の強化の第1歩となった（表-2）。さらに、一連の活動のなかで、身近にある素材を何かに使えないかという視点で常に注意深く、関心をもって見る姿勢も生まれている。

表-2 グループの中に起こった変化



今後、メンバーそれぞれの特技をいかした「ものづくり」への支援と収入に結びつくような取り組みへの支援を継続していく。

支援の方法としては、メンバーの自主性やペースを尊重し、押し付けないことが必要であり、普及員として、活動に役立つ情報の提供、提案をし、メンバーとともに考え、歩いていきたいと考えている。

めぐ実の森くりはらの活動が活発になることで、地域内の方々や他の地域から、栗原の豊かな自然を求めて訪れる多くの観光客に栗原の恵みを感じ、体験し、持ち帰ってもらい、地域の活性化につながることを期待し、支援を続けていきたい。